
SKET DANCE !

古泉 楓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

S K E T D A N C E !

【Nコード】

N 1 6 5 9 Y

【作者名】

古泉 楓

【あらすじ】

何か新作を書きたくて、無理やり他のを終わらせたけど、大丈夫かな？

まあ、いいや。実は新作って、これ以外にももう一つあるんだよね。探してみてちょ。

開盟学園に転校してきた、高校二年生の和泉希は、自分を変えたいと願っており・・・

第1話（前書き）

はい、どうも。新作です。ヒメコとキャプテン、可愛いです。

第1話

さあ、第一回目ということで、短いです！ すいません！

「えー。そうじゃ、一回目ってことで、定番の転校生だ。いいか。一回しかいわねーぞ。ちゃんと聞いとけよ。んじゃ、転校生。自己紹介」

「え？ あ、はい。えーと、和泉希です。よろしくお願いします」

深々とお辞儀をした。

「いいかお前ら。和泉希だぞ。和泉希。ちゃんと覚えておけよ」

「せんせー、3回言ってます」

「和泉ー。お前の席は、あそこのアカツノチリ毛虫の横な」

えゝゝゝ。誰？ あ、もしかして、あの赤いポップマンの帽子をかぶった人のこと？

と、ここで横を見ると、そうだと言わんばかりに頷いているオ

ツサンがいた。

んで、昼休み。

「おい、転校生」

が、そこには既に和泉の姿はなかった。

「「「・・・」」」

「スイッチ」

『わかつている』

く屋上く

「ふく。良い風く」

んーっと背伸びしながら、風に当たっていた。

「ふう。何にしても、これで午前終了♪ おっひるゝおっひるゝ」

傍らにあったランチパックに手を伸ばした所で、ドアのところに3人組が立っているのが目にとまった。

「・・・誰？」

「おお。さすがスイッチ。やっぱスゲーぜ、お前」

『俺の情報網をなめるな』

「別に誰もなめとらんよ？ 寧ろ、褒めとるやん」

「おい、転校生！」

「な、何よ」

「急にどっか行くなよ！ 探したじゃねーか！」

近づいてきて何を言い出すのかと思えば、そんなことを言い出した。

「何よ。私がどこに行こうと私の勝手でしょ？ アンタに指図される覚えはないよ？」

『まあ、その通りだな』

「認めるなよ！」

「……。何？ 漫才でもすんの？ 私、1人で静かにお昼ご飯を食べていんだけど」

「なんやと！ 折角人が転校早々ボツチになったら可哀想や思て探してこうして来とるのに、なんや、その言い草！」

「……。頼んでないし、頼む気もない」

きっぱりと言い放つ和泉。

『……。和泉希、元桜花中学出身。元々の出身は大阪。ヒメコと同じ小学校にいた』

「え？ そうなん？ そー言われれば、見たことあるような気ーも

するんやけど・・・」

そんなことまで・・・。さすがS K E T団。それなら・・・。

「へえ。そんだけ。はあ、私のことそれでわかったつもり？」

カチン。

『O型、10月30日生れの蠍座。和泉グループのCEO兼代表取締役兼会長』

「・・・」

『小・中と告白されは断っている。高校は・・・』

！！！！

「わかった・・・。もう、いい。さすがだね、S K E T団。噂以上だよ」

「噂・・・？」

「ああ。いや、こっちの話。・・・うん、いいかな」

3人の頭に”？”が浮かんだ。

「ねえ、新入部員探してる？」

「え？　ああ。まあな」

「私、入部します」

「え・・・」

「「『ええー！？』」」

第1話（後書き）

さあ、短いといったくせに思ったより長いです。下手打ったら、も
っといきそうでした。

第2話

「ほ、ほんで？ どーしてスケツト団ウチに入ろうと思ったんや？」

「え？ 面白そうだから」

「心外だな。これでも俺達は活動してるんだぜ？」

「例えば？」

「・・・い、依頼を解決したり」

「他には？」

「依頼を解決したり・・・」

「それしかないの!？」

「そりゃ基本はそうだろ!？」

逆ギレ。

「ま、まあまあ。お茶でもどないでつか？ さっきな、ヤバ沢さんがダージリンティーを持ってきてくれたねん」

「しかし、どうしてこの小説の作者はチャレンジャーなんだろう」

「ん？ 何の話だ？」

「いや、何でもない」

『ところで、第二話とかなっているが、実際は登場人物の紹介だぞ
(笑)』

「何だよ！」

藤崎ユウスケ。通称…ボッスン。スケツト団部長にして、本編の主人公兼原作主人公。顔芸が得意だったり、折り紙が得意だったりする、殆んど主人公とは思えないような特技を持つ、一見主人公っぽくない人。因みに、集中が得意だったりもする。

「なんだよ、この説明！」

「なんや、ええやん。別に」

鬼塚一愛。読みは「おにづかひめ」。可愛い名前に反して性格は凶暴（笑）。本当は活発。大阪にいた時からフィールドホッケーをしており、中学までずっとやっていた。あだ名は鬼姫。現在はヒメコ。スケルトン唯一の武闘派。不思議な味のするペロチポップキャンデイが好物。関西弁でツツコミが得意なメインヒロイン。

本作品ではヒロイン。

「なんや、アタシは思ったより普通の紹介やな。ほんなら、スイツチはどう紹介されるんや？」

『俺か？　そうだな・・・』

笛吹一義。あだ名はスイッチ。パソコンが得意なオタクで、弟がいた。無口で、弟が作ったパソコンソフト、「音声合成ソフト」を通してでしか話すことしかできない。変人っぽいが、実は結構モテる。

「みじか！　何でやねん！　何でそんな短いん？　アタシは4行やったのに！」

「いいじゃねーか。なげーんだからよー」

『ところで、和泉の説明はどうなるんだ？』

和泉希。転校生。和泉グループの令嬢。

「短っ！！！！」

『俺の情報網でもこれしかなかった』

「て、お前が調べとったんかい！」

「この前、俺に調べられないことはないって言ってなかったか？」

『俺にも不可能はある。というより、和泉に関する全ての情報に規制がかかっていて、更に重要機密扱いとなっていて何一つ調べられないんだ。警察庁のデータベースにも情報があるらしいのだが、それも超厳重に保管されていて、長官補佐以上じゃなければ閲覧できないという機密さだしな』

「なんやそれ！ 凄いな！」

『所謂、国家機密扱いだ』

「本当に俺達と同じ高校生か？」

「ホンマやなあ。なんや、A組の中谷さんより凄いわあ」

『次回に続く』

「え？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1659y/>

SKET DANCE !

2011年11月17日19時42分発行